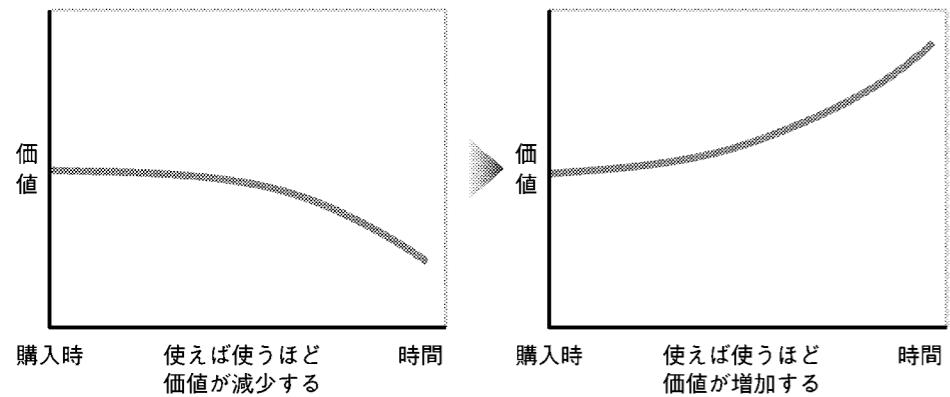


「タイムアクシス」デザインのすゝめ

日本独自の産業化と日本再生に向けて



価値減衰デザイン②から価値成長デザイン③へ

出典:『タイムアクシス・デザインの時代 世界一やさしい国のモノ・コトづくり』(丸善出版)

機械工業デザイン賞の審査に際して、常に気になっていることがある。この製品は果たして、5年後、10年後などどのように評価を受けているのである。将来、業界における位置づけはどうなるだろうか。社会にどのような影響を及ぼすに至るのだろうか。

元来、製品デザインの評価は、それが何年も使用された結果として行われるべきことであろう。つまり、製品の発表後5年を経過した後にその使用歴史を振り返ることで評価されるべきことである。しかし、本審査を含め多くのデザイン審査は発表直後に行われる。そのため、我々審査員には、その後の社会の動向や未来の評価を予見しつつ、審査することは審査員にとって重責である。難い問題である。

カギを握るのは、「タイムアクシス」の注目されるべきことである。しかし、このことは、審査員とともに、審査員には、その後の社会の動向や未来の評価を予見しつつ、審査することが望まれる。そのため、我々審査員には、その後の社会の動向や未来の評価を予見しつつ、審査することが望まれる。そのため、我々審査員には、その後の社会の動向や未来の評価を予見しつつ、審査することが望まれる。

「育つ」技術と「育てる」技術

元来、

機械工業デザイン賞の審査に際して、常に気になっていることがある。この製品は果たして、5年後、10年後などどのように評価を受けているのである。将来、業界における位置づけはどうなるだろうか。社会にどのような影響を及ぼすに至るのだろうか。



専門審査委員
慶應義塾大学教授

松岡 由幸

手芸品に見られる 価値成長デザイン

今からもう25年以上も前のことになる。当時、いさつをしたものであ

る。

ただ、いじで述べたい

ことのを想定し、総合的

にこの製品の評価にどう影

響を及ぼすのか、これら

のことを想定し、総合的

にこの製品の評価にどう影

響を及ぼすのか、これら

のことを想定し、総合的